

中高層木造視野に

超大断面集成材ライン整備

最大1.5m角柱も可能に

銘建工業

集成材メーカーの銘建工業（岡山県真庭市、中島浩一郎社長）はこのほど、中大規模木造建築向けの集成材製品を製造する大断面工場に1500ミリ角までの超大断面集成材が製造可能なラインを導入した。

昨年までCLT大断面材加工機（ユニチカ）が置かれていたF棟に導入されたのは、最大1500ミリ角の超大断面材にも対応した機（庄内機械）など。大型プレス機（山本鉄工所）と、その横に並んで置かれた切削機（キクカワエンタープライズ）、接着剤塗布機（庄内機械）など。プレス機と切削機の間を搬送を周回することになり、これまで500ミリ角を超える集成材の製造では、接着剤の塗布がクランプでの圧縮までの作業を接着剤の可

使時間をにらみながらほとんど手作業で行ってきた。新しい設備によって1500ミリ角、長さ14メートルまでの集成材の接着から切削までの作業が



材料がプレス機（右）と切削機（左）の間を搬送で行き来することで効率的な接着が可能になった。

の材料や、自社の提案機能を持った新たな部材の商品開発や既存の商品の製造コスト低減にもつながると期待される。CLTの2次接着も可能なことから、不燃など高い

完全な機械化でき、生産性が飛躍的に向上する。「中高層木造の建築に必要な材料として、断面の大きな注文が増えている。ビル物の木造建築が手頃な価格でできれば市場は拡大する。ゼネコン向けの材料がプレス機（右）と切削機（左）の間を搬送で行き来することで効率的な接着が可能になった。

製造する材料が最大で10メートルを超えるほど長大なものになるため、工場内は搬送装置で移動させ、出荷用車両への積み込みには外部に新たに設置されたガントリータイプのクレーンを使用するという。

今回の設備への投資額は約7億5000万円。今年度の林業・木材産業成長産業化促進対策交付金事業の補助を受けている。